

平成23年度

(第2/3回)

(集団研修)

普及指導員のための畑作物管理

実施要領

平成23年5月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 上位目標	2
4. 案件目標	2
5. 単元目標	2
6. 研修成果品	2
7. 研修員参加資格要件	3
8. 研修実施体制	3
9. 研修の評価	4
10. 研修付帯プログラム	5
11. 主な宿泊場所	6
12. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 コースカリキュラム（案）
- 付表－3 コース日程（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：(集団研修) 普及指導員のための畑作物管理

英文：Group Training Program on “Upland Cereal Crops Management for Extension Officers”

(2) 受入期間

平成 23 年 5 月 23 日 (月) ～ 7 月 20 日 (水)

(3) 技術研修期間

平成 23 年 5 月 30 日 (月) ～ 7 月 19 日 (火)

(4) 定員、割当国

定 員：9 名 (受入数 10 名)

割当国：エチオピア、ヨルダン、ミャンマー、スーダン、ザンビア、ジンバブエ
(下線は受入国)

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

途上国では、国民の多数が農村で生活し、農業を営んでいる一方で、人口が急激に増加しており、食料の確保が急務である。また、農地の過度な利用による土壌の劣化、水不足などが問題となっている。このため、安定的に食糧生産を行い、また生産量を増加させるためには、農地の適切な利用、効率的な生産がますます重要になっている。

安定的な食糧生産や生産量の増大には、試験研究や農民自身により開発された適正技術が普及指導員を通じて地域の農民に広く普及することが不可欠である。

しかしながら、途上国では普及組織が人的、物的、資金的に脆弱なため、技術開発の成果を農民に伝えることが困難となっている。具体的には、普及員が農家のニーズを把握する能力や機会の不足、開発した技術の応用や、それを伝える普及技術が未発達であり、また効率的に普及を実施するための移動手手段や研修施設が十分ではない。

このような背景の下、本案件は開拓以来の十勝地方の農業技術の発展とその普及技術およびその体制の変遷を学ぶことで、途上国の農業普及システムおよび農業技術の発展に寄与することを目的とする。

3. 上位目標

所属部署・組織により、策定した農業普及に関する特定技術の普及計画が実施される。

4. 案件目標

農業普及に関する特定技術の普及計画案が所属部署・組織によって作成される。

5. 単元目標

- (1) 農業普及に関する特定課題の原因を具体的に列挙できる、もしくは原因を特定するための調査ができる。
- (2) 適正技術の開発の方向性を論理的に説明できる。
- (3) 農業技術の効果的な普及方法を事例をもとに説明できる。
- (4) 本邦研修終了時に普及計画の素案が作成される。

6. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に報告する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標(3)にかかる活動計画(案)を作成し、

コース終盤に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画(案)を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画をまとめ、帰国後3ヶ月以内にJICA帯広に提出する。JICA帯広は同計画書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

7. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 畑作物(主に小麦、馬鈴薯、豆類)栽培に関し、農民に直接技術指導をしている農業普及員または普及員を指導する専門技術員(大学での研究者および行政官は除く)
- イ. 当該分野で3年以上の経験を有する者
- ウ. 年齢が25歳以上45歳以下の者
- エ. 畑地実習が多いため、十分な体力があり、女性に関しては妊娠していない者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL iBT 72点(CBT 200点/PBT 533点)以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

8. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーである株式会社帯広市農業振興公社の森脇芳男生産技術部長の助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター(JICA帯広)が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター(NRC)に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター(JICE)

所属の研修監理員を配置する。具体的な業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) NRC

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

9. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、研修監理員、社団法人北方圏センター等が参加し、研修の目標・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

10. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務および案件概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
5 月 24 日（火）	ブリーフィング
5 月 25 日（水）	ジェネラルオリエンテーション/ブリーフィング 講義「日本の社会と日本人」 講義「日本の経済」

5月26日(木) 夜間	ジェネラルオリエンテーション/ブリーフィング 講義「日本の教育」 講義「日本の政治・行政」「日本の歴史・文化」 日本語講習
5月27日(金) 夜間	日本語講習
5月28日(土)	日本語講習

11. 主な宿泊場所

帯広国際センター (OBIC)

所在地：〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

12. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

平成23年度 研修員関連情報

研修員情報(英語力はリスニング/スピーキング/読解/記述の能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Mr. TIRUNEH Wundneh Getahun ② D-11-01185 ③ 39 ④ 男 ⑤ エチオピア	① ホレタ農業研究センター ② 1年 ③ ジュニア研究員 ④ ABAA ⑤ なし	① 穀物(テフ、大麦、小麦、メイズ)、豆類、油糧作物の研究普及活動 ・酪農、飼料にかかる研究 ・農民参加型の適正技術の開発普及アプローチの研修 ② 農産物の生産性および質の向上を目的とした各種研究	・農業研究部門と普及部門の効果的な連携のあり方 ・農業研究者として、普及部門に何を求められている ・農家に研究成果を効果的に利用してもらうためには何が必要なのか ・農業共同組合の仕組み
2	① Mr.TBAILEH Abdelnasser Shawkat ② D-11-00654 ③ 46 ④ 男 ⑤ ヨルダン	① 国立農業研究試験センター マダバ普及ユニット 普及担当官 ② 16年 ③ ヨルダン大学(畑作物修士) ④ ABAA ⑤ イスラエルSINADCO(有機農業)	① 研究成果をもとに、理想的な農業生産手法について農民や地域コミュニティに普及する。また農民が直面する輸送問題について解決方法を探る。 ② 農業生産向上のため各地方や他の機関による最新の研究成果を適用する。 ・自然資源の保護と持続的利用をはかる ・食糧保障の実現 ・環境を破壊せずに資源の持続的利用により生態系バランスを維持する ・当センターの普及サービスを通じ技術移転を行う	農民に普及可能な試験研究、とくに少雨に適応する(早魃耐性)作物に関心がある。
3	① Mr.MAUNG Maung Aye ② D-11-00867 ③ 44 ④ 男 ⑤ ミャンマー	① 農業・灌漑省 ミャンマー農業サービス 農業普及部 副部長 ② 4年 ③ YEZIN 農業大学(農業、作物栽培) ④ BBBB ⑤ イスラエルARAVA(農業研修)	① 農民に適切かつ適用可能な技術を普及する ・地域に主要作物のデモンストレーション圃場および試験圃場を作る ② 農民に適切な技術を普及する ・農業生産性を向上する ・農民の生活水準を改善する	・日本の農業協同組合 ・プロジェクトサイクルマネジメント、日本の農業技術と営農管理手法 ・日本の管理技術 ・農業計画の評価手法
4	① Mr. KIRI Wilson David ② D-11-00933 ③ 34 ④ 男 ⑤ スーダン	① 南部スーダン 中央エクアトリア州農業森林省 農業普及官 ② 記載なし ③ 高等学校卒業 ④ ABBB ⑤ なし	① 農業省と連携をはかり農民グループの組織化を促進する ・農民とサービス提供機関との間の調整を行う ② 年間を通じた食糧保障を確実化すること	・土壌分析と分類(土壌断面図) ・ポストハーベスト損失計算 ・畑作物の病虫害防除
5	① Ms. HUSSEIN Azza Badri ② D-11-01050 ③ 30 ④ 女 ⑤ スーダン	① カッサラ州農業省 技術移転普及農業部 農業担当官 ② 6年 ③ ゲジラ大学(農業科学/農業経済) ④ BBBB ⑤ なし	① 農民の研修と能力開発 ・農業資材の配布 ・農民野外学校の実施に関する調整と準備 ・農民の圃場研修の実施を支援 ・農民リーダーの能力開発 ・コミュニティにおける環境問題の啓発 ② カッサラ州住民の食糧保障、自然資源保全、多様な作物生産の奨励、農業セクター開発計画、農民の栽培手法向上のための技術パッケージ普及	普及指導員のための畑作物管理

6	① Mr. JUMA Mohieldin Ali ② D-11-01052 ③ 31 ④ 男 ⑤ スーダン	① ガダーレフ州農業森林省 普及・技術移転部 普及本部 主任担当官 ② 3年 ③ カッサラ大学(農業工学) ④ BBBB ⑤ なし	① ・普及本部の管理 ・畑作物の栽培デモンストレーション ・農民および普及員対象の研修実施 ② ・農民組織の構築 ・農民の生産性と所得向上のため農業技術を普及する ・農民の教育と研修実施	・生産性向上のための技術 ・ストライガ(根寄生雑草)防除技術 ・農民のための所得創出活動
7	① Mr. Musonda Lloyd Kanyanta ② D-11-01068 ③ 30 ④ 男 ⑤ ザンビア	① 農業・組合省 農業/農業生産局 Mumbwa地区 作物職(農業職) ② 3年 ③ ザンビア大学(作物栽培) ④ ABBA ⑤ 論文作成にかかる研修(ガーナ 1週間)	① ・普及員向け、農家向けの定期的な研修の実施 ・作物栽培にかかる技術支援 ・圃場実験 ・作物の収量予測報告書の作成 ・種子増産農家への調査 ② 食の安全、雇用創出、貧困レベル削減のための農業生産性向上を図る。	・日本の農業全般、農業機械と畑作物管理の歴史的な変遷 ・それらがどのようにザンビアに活用できるのか
8	① Mr. Mulenga Moses ② D-11-01069 ③ 34 ④ 男 ⑤ ザンビア	① 農業・組合省 農業局 上級農業職 ② 2年 ③ ザンビア大学農学学士 ④ AAAA ⑤ なし	① ・普及員向け、農家向けの定期的な研修の実施 ・作物栽培にかかる技術支援 ・圃場実験 ・作物の収量予測報告書の作成 ・種子増産農家への調査 ② 国家レベルでの持続的かつ競争力を持ちえた農業分野の開発支援	・集約農業 ・低投入型の農業(Cost Minimisation)
9	① Ms. MARUMBWA Nola ② D-11-00942 ③ 37 ④ 女 ⑤ ジンバブエ	① 農業・機械化・灌漑開発省 農業技術普及局 農業普及担当官 ② 8年 ③ Mlezu農業大学(農業ディプロマ) ④ AAAA ⑤ なし	① 現地普及員や農民に作物栽培に関する技術普及サービスを提供する。また作物生産の知識・技術の研修を実施する。 ② 農業技術の普及サービスを通じて政府の農業政策を実施し、生産性が向上し持続的かつ収益性の上がる農法の適用を促進する。	・作物管理: 日常業務で携わっているので作物管理に関する技術と知識を向上したい。 ・簡易土壌分析: 農民は土壌や肥料の知識がなく収量が低いので、簡単な分析を学んで農民に普及し生産レベルを向上したい。
10	① Ms.MANGENA Sibongile ② D-11-00943 ③ 29 ④ 女 ⑤ ジンバブエ	① 農業・機械化・灌漑開発省 農業技術普及局 作物生産部 上級農業普及専門官 ② 4年 ③ ジンバブエ大学(作物科学) ④ AAAB ⑤ 中国Quangxi 研究所(作物加工)	① ・圃場スタッフに作物生産手法の情報を更新する ・作物生産のデータ収集を行い、研修・フィールドデイ、ワークショップ、シンポジウムを通じて普及する ・試験およびデモンストレーション圃場の設置 ・技術文書や概況報告書の発行 データ収集分析および文書化 ② 農業技術の普及サービスを通じて政府の農業政策を実施し、生産性が向上し持続的かつ収益性の上がる農法の適用を促進する。	・技術普及手法 ・有機農業 ・作物管理と土壌分析 ・普及計画の策定

(単位:day)

小項目	カリキュラム	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
単元目標1:集約的作物栽培技術を説明できる								
農業の概要	日本の農業	1.0				農業振興公社	日本の農業概要を紹介、課題と問題点の対策を知る	日本の農業の現状、今後の進展方向
	帯広市の農業	0.5				農政課	帯広市の農業の推移と現状	帯広市の農業概要を紹介
	農業行政および農業技術センターの役割	1.0				農政課	農業と行政の関わりを理解し、農業技術センターの役割を知る	農業行政の仕組みについての講義、技術センターの農産係、経営係の業務内容説明及びほ場視察
	畑作農家現地視察	0.5		1.0		農家(広瀬牧場)	酪農家の現状視察	農家の見学
農業の変遷	昔の農業	0.5				農政課	日本の農業の歴史・変遷を知る	日本の農業の歴史・変遷(ビデオ)
	農業機械			1.0		農機具歴史館 田畑農機 長屋機工	昔の農作業機・農具の紹介 小規模で簡易な農業機械の紹介	農作業機・農具について
			0.5			大塚農場、農業振興公社	畑作農家ででのほ場実習	播種機、カルチ、防除機
管理技術	作物栽培管理	2.5	1.5			農業振興公社	作物の栽培管理実習	各種管理作業(耕起・施肥・播種・移植・防除等)の実習
	栽培技術の実態と技術習得	1.0	1.0			農業振興公社	穀類(小麦・豆)、根菜類(馬鈴薯)の栽培技術について知る	栽培技術に係る講義と実習
	土壌分析	0.5	0.5			農業振興公社	PH・EC簡易分析	分析実習/硝酸態窒素の土・作物の残留分析実習
	生育調査実習	0.5	0.5			農業振興公社	品種を比較するためなどの生育調査についてその意義や方法を理解する	生育調査の実施
	農産物の増収・品質向上の取組	0.5				十勝農協連	増収・品質向上のための土壌診断、根粒菌、種子管理について知る	土壌診断、根粒菌、種子管理にかかると価値農協連の取組
	農産物加工	0.5	0.5			農家	付加価値化や貯蔵、余剰生産物の活用について具体的技術を知る	野菜加工(ジャム)の実習
道外研修				4.0		姫路市農業振興センター タキイ種苗株	都市近郊農家の現状 種子・育苗の現状を見る	園芸センターの視察、ため池の視察 種子・育苗の現状の視察
単元目標2:効率的普及方法と地域に応じたシステムを説明できる								
試験研究	農業技術開発と技術普及の制度と現状	0.5		0.5		道立十勝農試技術普及部	北海道の試験研究の課題選定から研究成果の過程と、技術普及の制度を学ぶ	・研究課題の選定・研究方法・研究成果の活用 ・普及制度と技術普及の方法
農協	農協の制度と業務	1.0		1.0		JA川西	農協制度を理解し、集出荷の状況を見学する	農協制度・組合員勘定制度・生産組合制度と集出荷施設の見学
技術普及	農業普及事業の現状	0.5		0.5		十勝農業改良普及センター	試験研究結果を農家へ普及させる手法、地域の課題解決手法を学ぶ	・試験場からの研究結果の普及方法 ・農家・農協の課題(土づくり・地域づくり)
	農業者の取り組み	0.5		0.5		畑作農家(中藪)	農業者の技術普及分野の取り組み	農業者による技術普及
	農業高校	0.5		0.5		帯広農業高校	担い手としての農業高校の人材育成について知る	・農業高校の取組み ・生徒のプロジェクトの視察
	北海道立農業大学校視察	0.5		0.5		北海道立農業大学校	農業学校における人材育成を学ぶ	・北海道立農業大学校の取組み ・カリキュラムの視察
農村振興	農村との交流事業			1.0		八千代牧場	農業まつりの意義と状況を理解し、農家グループの活動や農産物・加工品の販売状況を視察する	牧場まつり見学
	農村女性の活動			0.5		チャオ代表	農村女性による活動	事例紹介
農業共済制度	農業共済制度	0.5				農業共済組合	共済制度の仕組みと内容	査定の具体的な方法など
学術研究機関	大学の研究と教育の現状	0.5				帯広畜産大学 地域共同センター	大学教育と地域共同研究センターの研究の取り組みを学ぶ	・大学の教育研究制度 ・地域共同研究センターの共同研究の内容
単元目標3:作物栽培普及における自国での地域課題を整理し、技術普及の企画・実施・評価を通して解決策の計画策定ができる。								
課題の設定	研修課題検討				1.0	農政課 農業振興公社	研修員の仕事内容を把握し課題を整理する	課題の選定と分担
解決策の手法	PCM研修	0.5	1.5			コンサルタント	研修員の課題解決のため、問題整理・解決手法を学ぶ	ワークショップによるPCM研修
解決策の構築	インテリムレポート検討会				1.0	農政課 農業振興公社	研修員のインテリムレポートの具体化	インテリムレポートの具体的計画づくり
					1.0	農政課 農業振興公社	課題別に研修員間でインテリムレポートの内容を検討	インテリムレポート内容の具体策について検討
					1.0	農政課 農業振興公社	インテリムレポート発表指導	インテリムレポートの個別指導
	振り返り			0.5		JICA	研修の内容を振り返り、研修員間で討論をすることで理解を深める	研修員の自主講義
発表会	インセプションレポート発表会				0.5			
	インテリムレポート発表会				0.5			
その他								
学校訪問								

(小計) 14.0 6.0 11.0 5.5

付表-3

コース日程 (案)

日時		区分	カリキュラムとその内容	担当機関 (講師名)	研修場所	宿泊
5/23	月		来日			帯広
5/24	火		ブリーフィング	北方圏センター	帯広国際センター	帯広
5/25	水		ブリーフィング/オリエンテーション	北方圏センター	帯広国際センター	帯広
5/26	木		ブリーフィング/オリエンテーション/日本語講習	北方圏センター	帯広国際センター	帯広
5/27	金	10:00-12:00	コースオリエンテーション	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広国際センター BRルーム	帯広
			発表会準備	JICA帯広	帯広国際センター BRルーム	
			日本語講習	北方圏センター	帯広国際センター	
5/28	土		日本語講習	北方圏センター	帯広国際センター	帯広
5/29	日		休日			帯広
5/30	月		帯広市長表敬訪問	JICA帯広	帯広市役所	帯広
		10:30-12:00	検討会	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 千葉 優作	帯広国際センター ORルーム	
		13:30-16:00	検討会			
5/31	火	9:30-12:00	検討会	JICA帯広/北方圏センター	帯広国際センター ORルーム	帯広
		12:00-12:30		JICA帯広/北方圏センター	帯広国際センター 会議室	
		13:30-16:00	発表会	農業概要(1)日本の農業	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	
6/1	水	9:30-12:00	講義	日本の農業普及	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広市農業技術センター
		13:00-15:30	講義	農業概要(2)帯広市の農業	帯広市農政課 千葉 優作	
6/2	木	9:30-12:00	講義	農業技術センターの役割 農業行政の仕組み	帯広市農政課 千葉 優作	帯広市農業技術センター
		13:00-15:30	講義	指定病害対策		
6/3	金	9:30-12:00	講義	昔の農業 / 農機具歴史館視察	帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター
		13:30-15:30	視察	農協の制度と業務	JA帯広かわにし別府事業所長 常田 馨	JA帯広かわにし別府事業所
6/4	土		休日			帯広
6/5	日		休日			帯広
6/6	月	9:30-12:00	講義	農協の制度と業務	JA帯広かわにし 参事 半田 聡	帯広国際センター S2
		13:30-16:00	講義			
6/7	火	9:30-12:00	講義	農業共済制度	十勝農業共済組合農作部 西田 幸博	帯広国際センター S2
		13:30-16:00	視察	堆厩肥の有効利用による化学肥料の節減	中村牧場 中村 寿夫	中村牧場 / (有)デイリーサポート
6/8	水	9:30-12:00	講義	栽培技術の実態と技術習得1 (小麦・豆類)	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 杉江 重信	帯広市農業技術センター
		13:00-15:30	講義			
6/9	木	9:30-11:30	講義	栽培技術の実態と技術習得2 (馬鈴薯、トウモロコシ)	帯広市農業振興公社 杉江 重信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀	帯広市農業技術センター
		11:30-13:00	視察	乳牛の共進会見学	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	JA帯広かわにし常設家畜共進会場
		13:30-16:00	講義	栽培技術の実態と技術習得2 (馬鈴薯、トウモロコシ)	帯広市農業振興公社 杉江 重信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀	帯広市農業技術センター
6/10	金	9:30-12:00	講義・実習	作物栽培管理実習1 (播種準備作業)	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター
		13:00-15:30	講義・実習			
6/11	土		休日			帯広
6/12	日		休日			帯広
6/13	月	9:30-12:00	講義・実習	農産物の加工	澤田 清美、高橋 美巴子	澤田ファーム
		13:00-15:30	講義・実習			
6/14	火	9:30-12:00	講義・視察	帯広農業高等学校における人材育成の取組み	北海道帯広農業高等学校	北海道帯広農業高等学校
		13:00-16:00	講義・視察			
6/15	水	10:30-12:00	講義・視察	北海道立農業大学校における人材育成の取組み	北海道立農業大学校	北海道立農業大学校
		13:00-15:00	講義・視察			
6/16	木	9:30-12:00	講義・実習	簡易土壌分析の習得	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 杉江 重信	帯広市農業技術センター
		13:00-15:30	講義・実習			
6/17	金	9:30-12:00	実習	農業機械実習	大塚農場 大塚 正昭 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター
		14:00-16:00	視察	農産物の増収・品質向上の取組み(土壌診断、根粒菌、種子管理)	十勝農業協同組合連合会 農産化学研究所	十勝農業協同組合連合会 農産化学研究所
6/18	土		休日			帯広
6/19	日		八千代牧場祭り			帯広

コース日程（案）

付表-3

日時		区分	カリキュラムとその内容	担当機関（講師名）	研修場所	宿泊
6/20	月	9:30-12:00	講義・実習 作物栽培管理実習2(作物の播種、移植)	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 杉江 重信、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	帯広
		13:00-15:30				
6/21	火	9:30-12:00	講義・実習 作物栽培管理実習3(雑草の管理)	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 杉江 重信、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	帯広
		13:00-15:30				
6/22	水	9:30-12:00	ワーク ショップ PCM研修	グローバルリンクマネジメント株式会社	帯広国際センター ORルーム	帯広
		13:30-16:00				
6/23	木	9:30-12:00	ワーク ショップ PCM研修	グローバルリンクマネジメント株式会社	帯広国際センター ORルーム	帯広
		13:30-16:00				
6/24	金		学校訪問			帯広
6/25	土		休日			帯広
6/26	日		休日			帯広
6/27	月	9:30-12:00	講義・視察 農業技術開発と技術普及の制度と現状	十勝農業試験場	地方独立行政法人 北海道立 総合研究機構 農業研究本部 十勝農業試験場	帯広
		13:00-15:00				
6/28	火	10:00-12:00	講義・視察 農業普及事業の現状と仕組み	十勝農業改良普及センター	北海道十勝総合振興局産業振 興部 十勝農業改良普及セン ター	帯広
		13:00-15:00				
6/29	水	10:00-12:00	視察 農業機械の視察	田端農機具製作所	田端農機具製作所	帯広
		13:30-15:00	視察 農業機械の視察	長屋機工	長屋機工	
6/30	木	10:00-11:30	視察 農産物の加工	カルビーポテト	カルビーポテト帯広工場	帯広
		13:30-15:00	視察 農家視察	リパティヒル広瀬牧場 広瀬 文彦	広瀬牧場	
7/1	金	9:30-12:00	講義・実習 病害虫の対策と管理	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 杉江 重信、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	帯広
		13:00-15:30				
7/2	土		休日			帯広
7/3	日		休日			帯広
7/4	月	9:30-12:00	討論 レポート検討会	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 千葉 優作	帯広国際センター S4	帯広
		13:30-16:00				
7/5	火	9:30-12:00	講義・実習 生育調査実習	帯広市農業振興公社 杉江 重信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	帯広
		13:00-15:30				
7/6	水	9:30-12:00	講義 農業者の取り組み	中藪農園 中藪 俊秀	帯広国際センター S4	帯広
		13:30-14:30			視察	
7/7	木	9:30-12:00	視察 農村女性の活動事例紹介	チャオ代表 石井 栄子	広野町石井農場、 広野農業担い手センター	帯広
		15:30-16:30	視察 帯広市における生産者の対面販売の取り組み	帯広市農政課 千葉 優作	農業技術センター とから大平原交流センター	
7/8	金	10:00-12:00	講義 大学教育及び産学官連携協力の現状について	帯広畜産大学 地域連携推進センター セン ター長 日高 智	帯広畜産大学 地域連携推進 センター	帯広
			インテリムレポート発表会準備(*レポート提出)		帯広国際センター PCルーム	
7/9	土		帯広→京都			京都
7/10	日		休日			京都
7/11	月	10:00-12:00	視察 タキイ種苗視察	タキイ種苗株式会社	タキイ研究農場	姫路
		午後	京都→姫路			
7/12	火	10:00-12:00	視察 都市近郊の農業の現状、市民農園、ため池、関連する各施設の視察	姫路市農業振興センター	姫路市農業振興センター 関連する視察先	姫路
		13:00-15:00				
7/13	水		兵庫→帯広			帯広
7/14	木	9:30-12:00	討論 インテリムレポート実施検討会(リハーサル)	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 千葉 優作	帯広国際センター ORルーム	帯広
		13:30-16:00				
7/15	金		インテリムレポート発表会準備		帯広国際センター	帯広
7/16	土		休日			帯広
7/17	日		休日			帯広
7/18	月		海の日			帯広
7/19	火	10:30-12:00	評価会	JICA帯広	帯広国際センター S2	帯広
		13:30-16:00	インテリムレポート発表会	JICA帯広、北方圏センター	帯広国際センター ORルーム	
		16:00-16:30	閉講式	JICA帯広	帯広国際センター ORルーム	
		16:30-17:00	閉講パーティー	JICA帯広	帯広国際センター 会議室	
7/20	水		帰国			

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成22年度	平成23年度	累計
応募数	10名	16名	26名
受入数	9名	10名	19名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国名	平成22年度	平成23年度	累計
ミャンマー	●	○	2名
ヨルダン	○○	○	3名
エチオピア	○	○	2名
スーダン	○	○○●	4名
ザンビア	○○	○○	4名
ジンバブエ	○○	●●	4名
合計	6カ国 9名	6カ国 10名	6カ国 19名